

川上ダム通信

2017
1
月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。
<http://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
ご意見・ご感想はこちらへ <mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp>

Vol. 136
Since 2005

新年のご挨拶

～新たなステップに向けて～

謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素から川上ダム建設事業につきまして深いご理解と温かいご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。年頭にあたり建設所職員を代表してご挨拶申し上げます。

昨年は、4月の熊本地震、8月の東北・北海道の台風被害など大きな自然災害が相次いで発生しました。多くの人命や資産に被害が生じ、未だに生活再建途上の方が多くいらっしゃいます。また一方では各地で渇水傾向が見られ、例えば関東地方では連日水源のダムの状況が映し出されるなど、人々の関心を集めました。幸い伊賀地域においては大きな自然災害も渇水もなく一年が過ぎましたが、日頃から意識を高く持ちいざというときに備えたいものです。

川上ダム建設事業につきましては、平成34年度の事業工期を厳守すべく、ダム検証が終わってから諸手続きや各種補償を進めてまいりました。この間、川上ダム通信でもお知らせしましたように、岡本市長をはじめ地元伊賀市のみなさまより水資源機構本社や国土交通省等に対し幾度も事業の早期完成のご要望をいただきましたことを、この場を借りてお礼申し上げます。木津川・淀川の治水、伊賀市の利水に重要な役割を果たす川上ダムの早期完成にあらためて意を強くした次第です。

現在は次の段階、すなわち本体工事発注に向けて設計・施工計画を固めているところです。また、気象水文観測のほか、地下水調査、騒音・振動等の調査も実施しています。各種環境調査も継続的に実施し、オオサンショウウオについては文化庁の許可を得て保全対策を進めています。付替県道青山美杉線は、残る工事を進め、みなさまのご協力を得ながら今年のうち供用開始できるよう努めてまいります。貯水池内では、本体工事を行うための準備工事となる工事用道路工事や斜面对策工事などを発注し、鋭意施工を進めています。工事の様子などは適時みなさまにお知らせしてまいりたいと考えております。

最後になりましたが、酉(とり)年の今年は次のステップへと飛躍すべく、職員一同気持ちを引き締めて事業の推進に努めてまいります。読者のみなさまのご多幸とご健勝を祈念いたしますとともに、引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【所長 加納茂紀】



川上ダムにおける落石対策について

当建設所では川上ダムの建設にあたり、ダム本体工事中の安全確保等のため、川上川周辺において、落石の可能性のある石の対策工事を行っています。そこで今月号では、当建設所における落石対策方法について説明します。

落石対策は、落ちる恐れのある石に対策を行う「予防工」と、落石が発生した際に落石を受け止める「防護工」とに大別されます。



石の除去（写真左）、ワイヤー等での石の固定（写真右）の事例



防護柵（写真左）と防護網（写真右）の事例



「予防工」では、落ちる恐れのある石を除去する方法や、斜面にワイヤーやセメント等で固定する方法がありますが、除去が可能な場合は石を除去する方法が最も確実であり、当建設所でも石の除去を基本としています。

「防護工」は、道路際に防護柵や防護網等を設置して落石を受け止める方法です。当建設所では、現地が緩斜面である場合は防護柵を、急斜面である場合は防護網を設置することとしています。

この「予防工」と「防護工」を用いて、川上川周辺の現地状況やコスト面等を考慮して最も有効となる落石対策工事を実施し、川上ダムの建設工事が安全に施工できるよう準備を行っているところです。

【調査設計課 山本晃世】

水資源機構技術研究発表会に参加して

12月6日（火）～7日（水）、水資源機構本社（さいたま市）において、平成28年度（第50回）水資源機構技術研究発表会が開催され、関東、中部、関西、四国、九州の各ブロックから推薦された30題の発表がありました。

このなかで、私も発表の機会をいただき、オオサンショウウオの保全対策についての発表を行いました。オオサンショウウオの保全対策とは、ダム堤体ができる場所やダムにより水が貯まる場所に生息するオオサンショウウオを保護した後、他の場所に移転をし、移転した先で、^{そじょうろ}漕上路や人工^{すあな}巣穴設置を行うなどの対策を行うことです。この対策を行う際の具体的な考え方や現在の進捗状況などを



発表の様子（発表者は筆者）

とりまとめ、発表を行いました。

2年前の発表会に参加した際には、理事長賞をいただくことができたのですが、今回の発表会は全体的にレベルが高く、当事務所からもう1名、若手職員（八重樫）も発表しましたが、残念ながら両名とも理事長賞などの選には至りませんでした。

しかしながら、このような機会にチャレンジすることによって、技術力や説明能力の向上に役立てることができたと感じています。今後もこのような場を通じて、自身の資質向上に努めたいと思います。

【環境課 廣瀬真由】



関係機関からも大勢の方に聴講して頂きました

忍者の里を走る！伊賀上野シティマラソン！

11月27日（日）、第27回伊賀上野シティマラソンが開催されました。県内外から約3000名の参加者が集まり伊賀の街を駆け抜けました。当日はあいにくのお天気でしたが、忍者に扮したり、キャラクターに仮装している方もいて、大変な賑わいになっていました。遠くは北海道から参加された方もいて、このマラソン大会の人気の高さが伺えました。

当建設所からは、加納所長をはじめ、精鋭？8名が5km、10km、ハーフの部に参加しました。雨にもかかわらず、沿道には応援の皆様がたくさんいらっしゃり、地域にお住まいの方や商店の方々も外に出て、温かい声援を送って頂きました。最後に最

大の難関の急な上り坂があったのですが、もう歩きたい！と思った時に、沿道のみなさまの声援がとても励みになり、無事にゴールすることが出来ました。地域みんなで盛り上げる、とても活気のあるマラソン大会でした。



いっせいにスタート！

また、普段は車で大通りばかりを通過してしまうので気づかなかったのですが、上野城の裏路地を走りながら、こんな素敵なお店があったんだ！と嬉しい発見もありました。来年も是非参加し、タイムを縮めたいと思います。

当日は雨と寒さの中、大会運営スタッフやボランティアの方々の素晴らしいサポートを頂き心から感謝いたします。ありがとうございました。



【調査設計課 木瀬千尋】



雨に負けず、がんばるぞー！（左奥2番目が筆者）

敢国神社 新嘗祭★黒党祭

11月23日（水）、伊賀市の「^{あえくにじんじや}敢国神社」において、^{にいなめさい}新嘗祭と^{くろんどまつり}黒党祭が行われました。敢国神社は658年に創建された1300年以上の歴史をもつ神社で、伊賀の国の一の宮として、^{そうちんじゅおおうじがみ}当国の総鎮守大氏神として、古来から現在まで多くの人々に参拝されてきました。

新嘗祭はこの年の収穫を祝うお祭であり、併せて行われた黒党祭は、伊賀服部一族の私祭であったものを、平家の全盛期に伊賀（本姓は服部）^{へいないざ}平内左衛門家長が、氏神として崇拝している敢国神社で行うようになったのが始まりと伝えられています。この家長は、源平合戦において伊賀者を率いて源義経の奇襲を再三かわすなど神出鬼没な活躍から「煙りの末」と畏怖され、伊賀流忍者の祖ともいわれています。

当時の黒党祭は、盛大な祝宴のほか、7日間にわたって^{やぶさめ}流鏑馬や各種芸能等が奉納され、一般の観覧も自由でした。^{みこし}御輿の往復の^{ぐぶしや}供奉者は、原則服部氏族に限られ、黒装束に身を固めるのが常例でした。平家が滅亡後も祭は伊賀服部一族主催の神事として続けられましたが、費用がかさむことから、^{くろうとう}戦国時代初期になると苦勞当まつりといわれ、途絶えがちになったそうです。しかし、平成7年に当時の^た太郎館季幹宮司により450年ぶりに復興されることとなりました。平成15年からは新嘗祭と併せて毎年11月23日に行われています。



伊賀流忍者集団・黒党による奉納演舞

当日のお祭では「伊賀流忍者集団・^{くろんど}黒党」による奉納公演が行われました。伊賀市の能面師・亀井裕子さんによる、自然の石でできた^{しのぶえ}篠笛と太鼓の幻想的な演奏のほか、家長の^{まつえい}末裔である19才のシンガーソングライター「クロンド奈々」さんによる歌とダンスの奉納、忍者集団による奉納演舞などが行われ、神様のみならず参拝客も楽しませていました！【総務課 谷村正子】



伊賀一の宮・敢国神社 朱の鳥居

前深瀬川源流 尼ヶ岳へ

青山羽根付近で木津川と合流する前深瀬川は、流域面積56.2km²、幹線流路延長15.5kmの一級河川であり、古来より沿岸の地域を潤してきました。

前深瀬川の源流である尼ヶ岳は、標高957.6mを誇り、伊賀地方で最も高く、「伊賀富士」とよばれています。

さて、とある良いお天気の休日、伊賀地方一帯を望むには最高の日よりに違いないと思立ち、尼ヶ岳へ登ってまいりました。

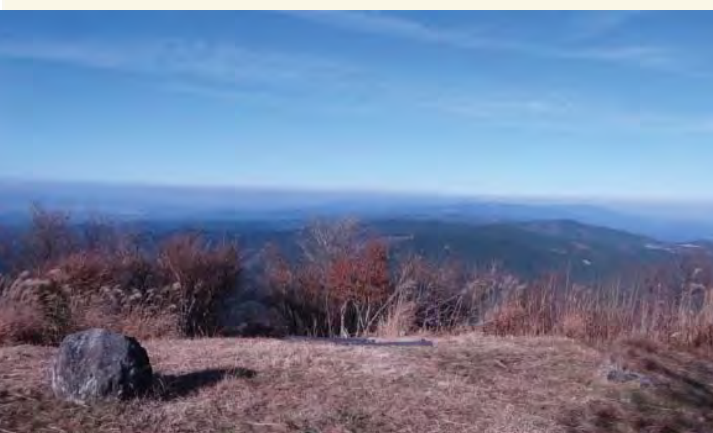
県道青山美杉線を走ると、落ち着いた美しい集落や紅葉とともに、前深瀬川がキラキラと輝きながら旅をともにしてくれます。

井堰もいくつか見られました。案内板のある伊賀市営南部簡易浄水場から、登山口へ。晩秋の光の射す樹林の中を登っていくと川のせせらぎが時々聞こえ疲れを癒してくれます。キツツキの木をつつく音なども聞こえてきました。最後の急な階段を登りきるとそこには爽快な景色が広がっていました！頂上からはぐるっと周りが見渡せ、青山高原の風力発電施設の羽根が回っているのも見えました。疲れも一気に吹き飛びました。

高尾地区をはじめ、地元では毎年元旦に尼ヶ岳への初歩きを行っていらっしゃるそうです。前深瀬川の源流、美しい景色を訪ねて、一度登られてはいかがでしょうか。



美しい集落と紅葉と前深瀬川



頂上からの景色は最高



静かに佇む姿に癒されます



【総務課 谷村正子】

本誌に対するご意見と掲載記事を募集します♪

当建設所では、読者の皆様により一層楽しみながら川上ダム通信をお読み頂けるよう、本誌に対するご意見や掲載記事を募集しています。詳細については、下記までお問い合わせくださいますようお願いいたします。

【問い合わせ先】 総務課 TEL 0595-52-1661 Mail somu1@lily.ocn.ne.jp

※掲載記事については、広告など営利目的のものはお受けいたしかねますのでご了承ください。

イベントのお知らせ

大村神社初詣

開催日 平成29年1月1日(日)～
平成29年1月7日(土)

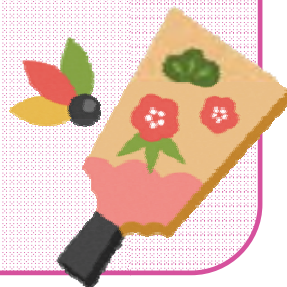
問合せ先 大村神社
TEL 0595-52-1050



敢国神社初詣

開催日 平成29年1月1日(日)～
平成29年1月7日(土)

問合せ先 敢国神社
TEL 0595-23-3061



編集後記

赴任から数ヶ月、あっという間に新しい年を迎えることとなりました。月日のたつ早さにおののくとともに、今年こそは気をひきしめていこう！と誓う、毎年の元旦です。

【広報誌発行事務局】

編集長	加納 (所長)	小谷口 (工務課長)
デスク	大西 (総務課長)	富士澤 (第一用地課)
記者	谷村 (総務課)	八重樫 (第二用地課)
	山本 (調査設計課)	清水 (環境課)
		小野 (工務課)